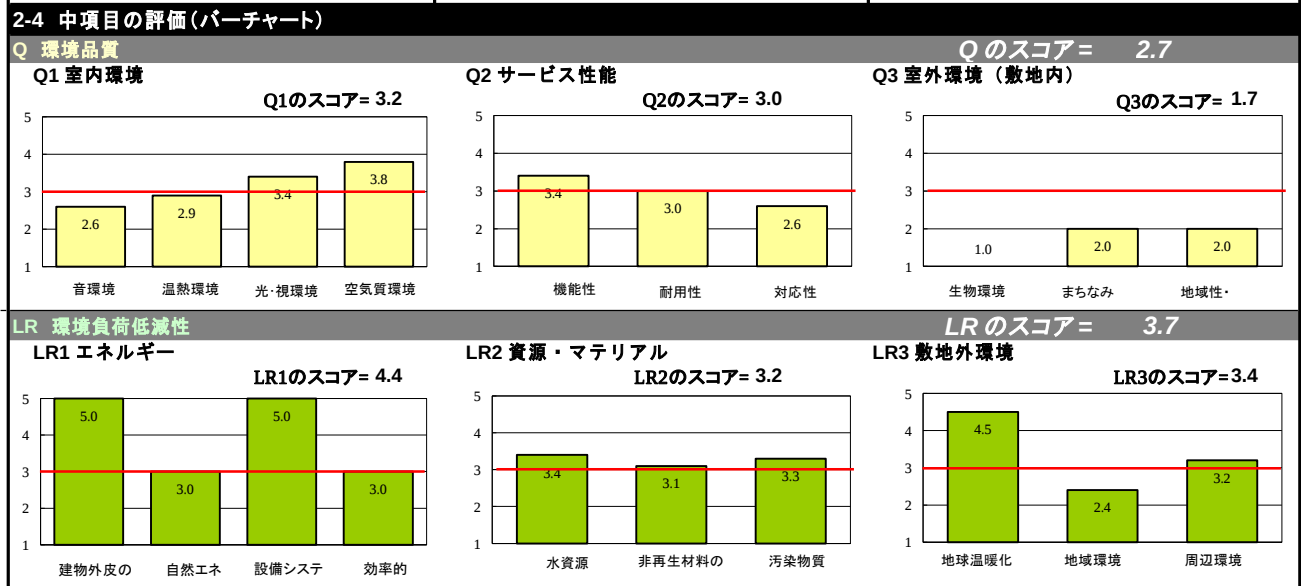
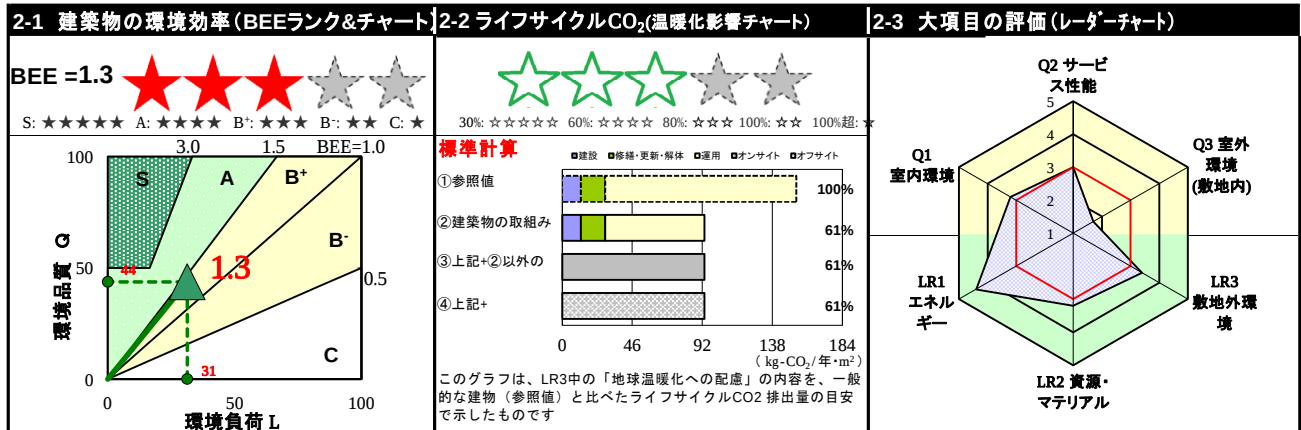


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ココファン 高槻山手町	階数	地上5F	
建設地	大阪府高槻市山手町	構造	RC造	
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	60 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2025年3月27日	
敷地面積	1,000 m ²	作成者	株式会社 硯川設計	
建築面積	577 m ²	確認日	2025年3月27日	
延床面積	2,551 m ²	確認者	株式会社 硯川設計	



3 設計上の配慮事項		
総合 ・建物の高さを極力抑え、周辺のスカイラインに配慮しました。		その他 特になし
Q1 室内環境 ・使用建材はF☆☆☆☆としました。 ・非喫煙者が煙に曝されないような対策が十分に取られている。	Q2 サービス性能 設備のメンテナンス性の向上に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 高木、中木、低木をバランス良く配置し、また屋上緑化も設け、室外環境の向上及び室内の熱負荷の低減に努めた。
LR1 エネルギー 外部に面する開口部は、全てLow-Eガラスを使用した複層サッシとし、断熱材の厚みを増し、外皮性能を高めた。	LR2 資源・マテリアル ・断熱材は全てノンフロンを使用した。	LR3 敷地外環境 ・車両は専用通路を介し敷地内に誘導し、市道への出入りの際の安全性に配慮し、市道の交通渋滞を起こさぬようスムーズに出入り出来るよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)ココファン 高槻山手町							
建設地		大阪府高槻市山手町							
用途／区分		病院							
【評価結果】	CASBEE 総合評価							B+	
①	CO2削減							5	
②	みどり・ヒート アイランド対策							2	
③	断熱性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外				評価対象外		
④	エネルギー消費性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外				評価対象外		
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					4		
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
	エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】									
項目		評価内容					スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					4.5	5	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					2.0		
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5	
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入		技術の名称				考慮事項			
特に配慮した事項									